

## この一歩をおしむまい

修学旅行が終わり、お土産に「抹茶オーレ」のスティック?をいただきました。さっそくいただこうと、カップにパウダーを入れ、お湯を注ぐと、たしかに泡だって、抹茶の緑と香り、とても



おいしくいただきました。が、「待てよ?」、抹茶は茶葉を細かく粉末にしたもの、お湯に溶けきることはなく、ほっておけば、粉が沈殿します。が、この「抹茶オーレ」は、しっかりお湯に溶けている?エッ、この緑色はどうやって…?緑のお茶は作るってとても難しく、あの「おーいお茶」だって、注げば黄色いのです。

さては、着色料?と裏の原材料表示を見ましたが、その記載もありません。そこで、さっそくそこに書いてあった「お客様相談室」に電話、「この緑色はどうやって?」と質問しました。結論は、ちゃんと抹茶が入っていて、溶けたように見えるが、ソーッとおけば沈殿します、とのこと。たしかに、飲み残しには、沈殿した抹茶がありました(←写真)。

12日(日)山梨、西桂町の山崎織物を訪ねました。シャトルレス織機を見たい、と。実はこの話題、2021年9月の「たまに」No.291で触れています。要は、私の頭の中では、織機(機織り)と言えば、シャトル(杼ヒ 綜絢によって上下に分けられた経糸の間に緯糸を通すための道具)があるのは当然で、シャトルレスなんて…、と思っていたものが、すでにシャトル織機は古い、ということを知り、となればどうやって緯糸を通すのか、とても気になり、是非見たいと思っていました。

でも、この間、コロナで、工場見学など軒並み停止。あきらめていたものが、そろそろ、と、工場見学ができそうな機屋さんを調べ、「そちらにシャトルレス織機があれば見せていただきたいのですが、」と、電話をしました。すると、シャトルレスのレピア織機(写真→)を見せていただける、とのことで、出かけたのです。



シャトルに変わってこのレピア(写真)が緯ヨコ糸をひっ



かけて、経タテ糸の間を走りますが、糸はシャトルのように往復せず、一方通行で一本ずつ織り込んだら切ってしまうことで、より速く効率的に機織りができるとのこと(実はまだちょっとどうして速く織れるのか、なぞもあります)。すでに50年前から使われていたとのことでした。

でも、とりあえずレピア織機見ることができました。機場を案内し、ていねいに説明もしてくださった山崎織物、山崎さんに感謝です。

気になったら、電話する、見に行く、話を聞く…、この一歩を惜しむまい、と。